

平成 29 年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

中学校 美術科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	学習評価の観点	1
3	中学校美術科の目標	2
4	中学校美術科における評価の観点及びその趣旨	2
5	中学校美術科の「内容のまとめり」	3
6	観点ごとの評価のポイント及び評価規準作成のポイント	3
7	中学校美術科における学習評価の進め方	4
8	中学校美術科における学習評価の事例	5
9	Q & A	21

1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠だと言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

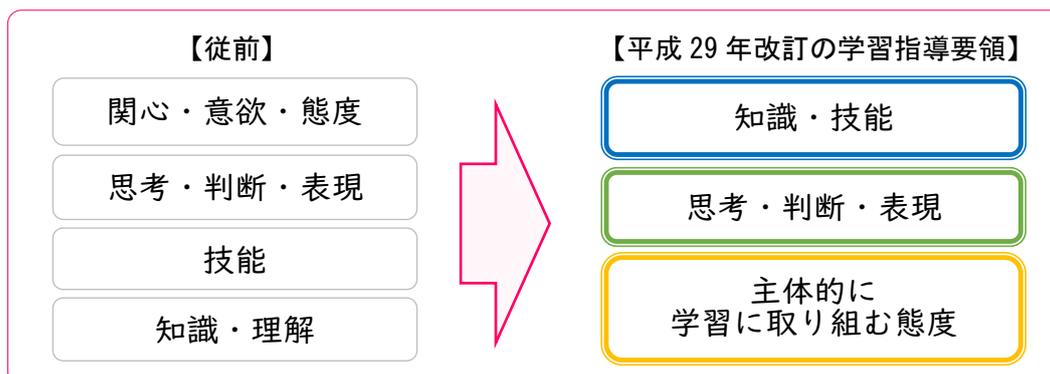
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



3 中学校美術科の目標

学習指導要領において、全教科の目標が、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。中学校美術科の目標は、次のとおりです。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

知識及び技能

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

思考力、判断力、
表現力等

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

学びに向かう力、
人間性等 ※

※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取することができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

4 中学校美術科における学年別の評価の観点の趣旨

評価の観点は全学年共通ですが、評価の観点の趣旨は学年ごとに異なります。中学校美術科における評価の観点及びその趣旨は、次のとおりです。



「学年別の評価の観点の趣旨」の「趣旨」とは、「観点別学習状況の評価対象を整理したものです」。

学年別の評価の観点の趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて表現方法を工夫して表している。 	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第2学年及び第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。 	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 中学校美術科の「内容のまとめり」

中学校美術科の「内容のまとめり」は、次のとおりです。

- 「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現 「A表現」(1) ア(2)、[共通事項]」
- 「目的や機能などを考えた表現 「A表現」(1) イ(2)、[共通事項]」
- 「作品や美術文化などの鑑賞 「B鑑賞」、[共通事項]」

観点別学習状況の評価を行う際は、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて進めることが考えられます。



「参考資料」に、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」が示されています。

「参考資料」第2編及び巻末資料参照

6 観点ごとの評価のポイント及び評価規準作成のポイント

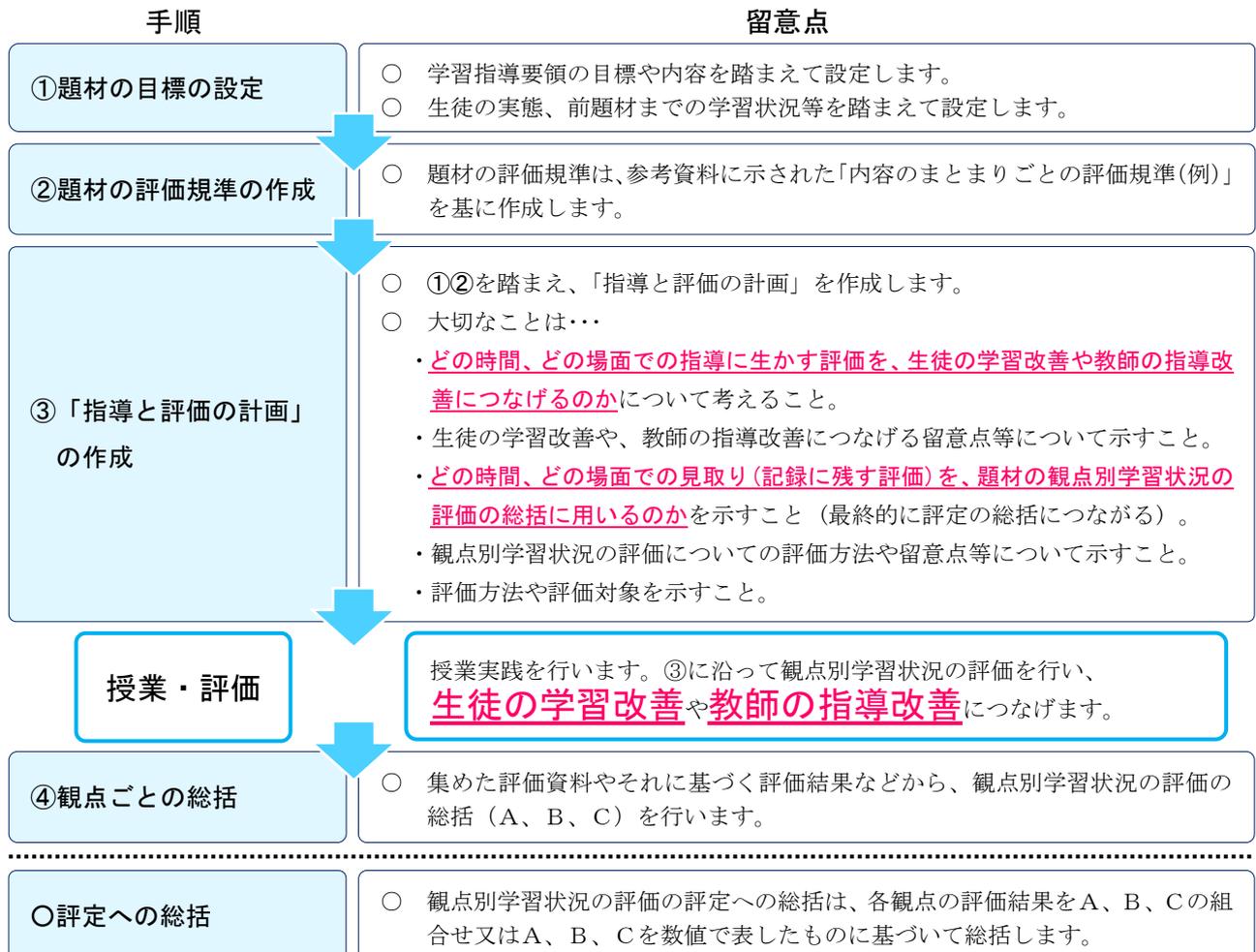
観点	観点ごとの評価のポイント(☆) 評価規準作成のポイント(★)
知識・技能	<p>○知識に関する評価</p> <p>☆[共通事項]が知識と位置付けられているので、[共通事項]について評価します。 [共通事項]… 「形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること」、 「造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること」</p> <p>★題材の評価規準は、[共通事項](1)について、学習指導要領「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の[共通事項]の取扱いと題材との関連を考えながら作成します。</p>
	<p>○技能に関する評価</p> <p>☆造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法などを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価します。</p> <p>☆制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価します。</p> <p>★題材の評価規準は、「A表現」(2)の内容を基に題材との関連を考えながら作成します。</p> <p>★独立した「B鑑賞」の題材では、技能の評価規準を位置付けることはありません。</p>
思考・判断・表現	<p>○発想や構想に関する評価</p> <p>☆造形的な見方・考え方を働かせて、①自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫する、②目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどの調和を考え、構想を練る、などの発想や構想に関する資質・能力を評価します。</p> <p>☆技能に関する評価と同様に、制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価します。</p> <p>★題材の評価規準は、「A表現」(1)の内容を基に題材との関連を考えながら作成します。</p>
	<p>○鑑賞に関する評価</p> <p>☆造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価します。</p> <p>☆題材によっては、鑑賞的な活動が位置付けられていても、それが発想や構想に関する学習を深めるための活動であったり、主体的に学習に取り組む態度を高めるための活動であったりすることもあるため、そのような場合には記録に残す評価は行いません。</p> <p>★題材の評価規準は、「B鑑賞」(1)の内容を基に題材との関連を考えながら作成します。</p>

主体的に 学習に 取り組む 態度	○表現 ☆試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して構想や技能を、工夫改善したりしていく様子などの姿を捉え、評価します。
	○鑑賞 ☆造形的な視点を基に、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとするなどの意欲や態度を捉え、評価します。
	☆題材の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価規準と対応させます。 ★題材の評価規準は、題材の内容に応じて、「学年別の評価の観点の趣旨」との関連を考えながら作成します。

7 中学校美術科における学習評価の進め方



観点別学習状況の評価の進め方（手順）は、基本的に次のような流れです。まずは、学習指導要領を踏まえて各学校で作成した美術科における指導と評価の年間計画を確認しましょう。p. 5 からの事例も、この手順に沿って示しています。



8 中学校美術科における学習評価の事例

事例1 キーワード …… 指導と評価の計画から評価の総括まで
知識・技能の評価 思考・判断・表現（発想や構想）の評価

1 題材名 「素材との対話～ボックスアートで生み出す私の世界～」(第1学年)

2 題材の概要

- ・本題材の大きなねらいは、表現の意図や工夫などを考えながら、主題を生み出して豊かに発想を広げたり構想を練ったりする基本的な流れを掴ませることです。
- ・学習指導要領では、第1学年で全ての内容についての定着や基礎的な内容の取扱いが重要だと明記されています。1学年での基礎的な学びをその後につなげられるよう、系統的に指導することが重要です。
- ・ボックスアートとは、硯箱や文箱といった工芸的なものではなく、箱が持つ神秘性やその存在感を表現として取り入れた作品または手法のことを指します。



生徒の表現例

3 題材の目標



①題材の目標の設定

- ・学習指導要領の目標や内容を踏まえて設定しましょう。
- ・それぞれの学校の生徒の実態、これまでの学習状況等を考慮して設定しましょう。

(1) 「知識及び技能」に関する目標

- ・形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、構成の美しさや表現された思いを全体のイメージで捉えることを理解する。 ([共通事項])
- ・材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。 (「A表現」(2))

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・集めた素材から感じる形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 (「A表現」(1))
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 (「B鑑賞」(1))

(3) 「学びに向かう力、人間性」に関する目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、構成の美しさや表現したい思いなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

4 題材の評価規準



②題材の評価規準の設定

「参考資料」 巻末資料参照

「参考資料」に示されている「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体的化したり省略したりして、設定することが考えられます(下表波線部=具体的化したり省略したりした部分)。

知識	技能	発想や構想	鑑賞	態度(表現)	態度(鑑賞)
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
知	形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴など	発	集めた素材から感じる形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生	態表	美術の創造活動の喜びを味わい、構成の美しさや表現したい思いを基に構想を練ったり、意図に

<p>を基に、<u>構成の美しさ</u>や<u>表現された思い</u>を全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 材料や用具の生かし方、<u>つなげ方</u>などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく<u>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞</u>の学習活動に取り組もうとしている。</p>
--	--	--

5 題材の指導と評価の計画 (5時間)



③「指導と評価の計画」の作成

p. 4 参照

題材全体の指導と評価の計画を考えます。p. 4の留意点を再度確認しましょう。

○指導に生かす評価の場面 ●記録に残す評価の場面 ●※記録に残す評価の場面 (補完)

知知識 技技能 発発想や構想 鑑鑑賞 態表態度(表現) 態鑑態度(鑑賞)

時	学習活動	知 思 態						評価の場面における留意点	【 】 評価方法
		知	技	発	鑑	態表	態鑑		
1	<p>・作者の心情や意図に応じた多様な表現方法について考える。</p> <p>複数の作家の表現を鑑賞し、よさや工夫などを感じ取ります。</p>	○					○	<p>知 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取る。 【ワークシート、発言内容】</p> <p>態表 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとしたり、主題と表現の工夫について考えようとしたりする意欲や態度を見取る。 【ワークシート、活動の様子】</p>	
2	<p>・主題を生み出す。</p> <p>・主題を基に構想を練る。</p> <p>p. 10・11 参照</p>			○				<p>発 形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出しているかを見取る。 【ワークシート】</p> <p>発 構想がまとまらない生徒を中心に見取る。 【アイデアスケッチ】</p> <p>発 主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかどうかを見取る。 【ワークシート、アイデアスケッチ】</p>	
3	<p>集めてきた素材から感じることなどを基に、自分の思いとの関連から主題を生み出します。主題を基に発想や構想を練る場面では、絵と言葉で展開していきます。2・3時目の活動を明確に区切ることはしません。</p>					○	●	<p>態表 主題を生み出そうとしていない生徒を中心に見取る。 【ワークシート、活動の様子】</p> <p>態表 楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとする態度を評価する。 【活動の様子】</p>	
4	<p>・発想や構想を基に自分の意図に合う表現方法を工夫し表す。</p>		○				○	<p>態表 様々な表し方を意欲的に試しているかどうかを見取る。 【試作の作品、活動の様子】</p> <p>技 態表 発想や構想をしたことなどを基に、意図に応じて様々な表し方を試し、工夫して表しているかどうかや、意欲的に工夫しているかなどの態度を見取る。 【制作途中の作品、活動の様子】</p>	
5	<p>発想したことを基に、工夫しながら表現を行います。表現しながら主題を深めていくことができるように、個別に指導を行います。</p>								

4	p. 8・9 参照	●	●						知 技 材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているか、また、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを併せて見取り、知識及び技能を一体的に評価する。【作品、アイデアスケッチ等】
		●	※						発 作品から、主題や構成の変化を含めて、発想や構想を再度見取り評価する。【作品】
5	p. 10・11 参照			●					鑑 楽しく制作に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【完成作品、活動の様子】
						●			鑑 形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【発言内容、ワークシート、活動の様子】
6	・作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 相互鑑賞を行い、作者の表現のよさや工夫などを感じ取るとともに、自分の表現を振り返ることができるようにします。					○			鑑 作品の造形的なよさや美しさから作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかを見取る。【ワークシート】
								○	鑑 作品の造形的なよさや美しさから作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかを見取り評価する。【ワークシート】
授業後 〈題材終了後〉		●	●	※	※				知 技 完成作品やワークシートなどから知識及び技能の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】
				●	※				発 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等と完成作品を併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】
						●			鑑 作品の造形的なよさや美しさから作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかを見取り評価する。【ワークシート】

6 題材の観点別学習状況の評価の進め方

授業・評価



- ・題材の指導と評価の計画に沿って観点別学習状況の評価を行います。
- ・指導に生かす評価の場面では、**全員の評価が「おおむね満足できる」状況（B）以上になることを目指し、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立てを講じることを重視**します。

知識・技能 知知識 技技能

○指導に生かす評価の場面における留意点 ●記録に残す評価の場面における留意点(●※は補完)

→「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立ての例(赤字下線)

知 1時 評価規準：形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、構成の美しさや表現された思いを全体のイメージで捉えることを理解している。

○造形的な視点を豊かにすることができるように指導することに重点を置きます。

→形や色彩などが感情にもたらす効果をより実感的に理解できるよう、身近な体験などと関連付けて考えさせたり、具体例を示したりします。

4・5時

- 作品から、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを併せて見取り、知識及び技能を一体的に評価します。

授業後

- ※造形的な視点について理解はしていても、創造的に表す技能が十分に身に付いていないことで完成作品からだけでは見取れない生徒がいることも考えられます。授業後に、発想や構想の学習で作成したスケッチや、鑑賞活動でのワークシートなどを再確認し再度評価します。

技

評価規準：材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。

4・5時

- 4時目は、材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すことができるよう指導することに重点を置きます。

→ 具体的に、材料や用具の生かし方、つなげ方などについて実演を行いながら説明し、試させたり、生徒自身が表したいことを整理させたりします。

→ 主題を再度確認させ、表現の意図と試したことを関連させて再考できるようにします。

- 制作途中の作品を中心に、知識及び技能を一体的に評価します。また、作品から、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取ります。制作が進んでくる5時目にかけて、多くの生徒が材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、ある程度工夫して表現できるようになってきます。その時点で、「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒も見取れるようになるので、授業中での評価を確定します。

知と技の4・5時 ●記録に残す評価の場面での見取りの具体

「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒Lの例

	4・5時の段階①	4・5時の段階②	4・5時の段階③
表現の様子			
見取り	造花の花びらを全て白に染めたいと考え、アクリル絵の具や木工用ボンドなどで染まるかを実験的に繰り返していた。花びらに色を塗るのではなく、持っている材料で染めようとしていた。	白色のアクリル絵の具に木工用ボンドを混ぜ、その中に花びらを浸して染めようとしていた。	塗るのではなく染めようと試みていたが思うような結果にならず、ビニール袋の中で絵具とボンドを混ぜ合わせるなどして、色みの変化と粘性の変化を試しながら実験的に表現していた。

	4・5時の段階④	4・5時の段階⑤	4・5時の段階⑥
表現の様子			
見取り	染めようとした花びらがうまく染まらず、形づくりを先に進めようとしていた。グルーガンを使用し、素材の固定を試みていた。	固定がある程度終わった後にアクリル絵の具と木工用ボンドを塗っていた。結局、当初染めようとしていた表現は断念した。表現の時間や形がある程度できた上で計画を修正した。	終盤になって細い針金を箱全体に張り巡らせるというアイデアが新たに生まれていた。素材を取り込むような色の統一と同時に作品全体を表面的につないでいくような一體的な表現を目指していた。

生徒Lのワークシートに挙げられていたテーマは、「統一」で、自分で集めてきた素材から生み出した主題を表現するために試行錯誤を繰り返していました。各段階の様子から分かるように、アクリル絵の具や木工用ボンドなどで染まるかを実験的に繰り返す、絵具とボンドを混ぜ合わせる、グルーガンを使用し固定する、素材を取り込むように色の統一と同時に作品全体を表面的につないでいくような素材感と立体感を追究するといった姿が見られました。よって、評価規準に照らして、深まりや高まりが見られ、「十分満足できる」状況（A）と判断し、授業中での評価を確定しました。



4・5時目は、生徒が材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、意図に応じて楽しく工夫して表そうとする態度を見取り、各段階での表現の様子を全員分簡潔に記録しました。記録に残す評価の場面では、画像での記録も効果的で、参考にすることができます。

授業後

- ※授業中に評価を行った後に作品が変化する場合もあるので、授業後に完成作品をワークシート等の記述内容と見比べながら再度確認します。

思考・判断・表現

発 発想や構想 鑑 鑑賞

- 指導に生かす評価の場面における留意点 ●記録に残す評価の場面における留意点(●※は補完)

→「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立ての例(赤字下線)

発

2・3時

評価規準：集めた素材から感じる形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。

- 発想や構想は、制作が進む中で徐々に具体的な形になり、深まっていくため、制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価します。

→様々な作品例や素材などを用意し、他の表現に出会わせ、主題と構成の関連が分かりやすい作品を用い、表現の意図と工夫について考えさせます。

2・3時

○2時目は、生徒が主題を生み出すことが重要なので、主題が生み出せていない生徒を把握することに重点を置き、一人一人の生徒が主題を生み出せるように丁寧に見取ることに重点を置きます。主題を基に構想を練り始めた段階では評価の記録を取らず、学級全体に指導したり、個々の生徒の課題に対して個別の指導をしたりすることに重点を置きます。

→身近な体験などと関連付け、再度主題について考えさせます。

○3時目は、ワークシートなどの記述内容などを利用し、生徒が考えを可視化したものを中心に評価します。多くの生徒の構想がまとまってきた時点で、まだ構想がまとまらない生徒に重点を置きながら暫定的に評価します。

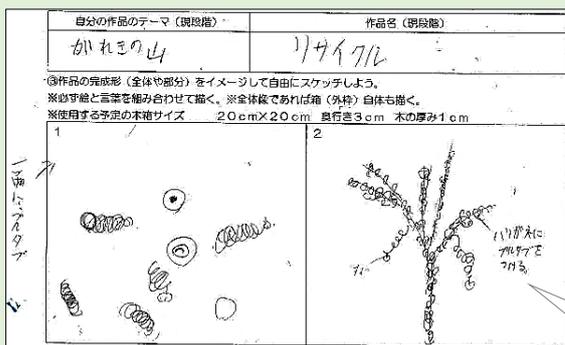
→感じ取ったことや考えたことなどを振り返らせます。

→形や色彩などの効果と主題との関係について考えさせたり、主題に基づいた全体のイメージを捉えさせたりします。

4・5時

●※4・5時目は、制作の中で主題を基にした構成の工夫も見取れるようになります。作品の完成が近付いてくる段階では、「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒も見取れるようになるので、授業中での評価を確定します。

発の2・3時で（B）と判断し、4・5時の記録に残す評価の場面で（A）という評価を行った生徒Mの見取りの具体



生徒Mのアイデアスケッチ(2・3時目)

生徒Mは、2・3時目に、主題を生み出し、構想を練ることができていました。針金とプルタブの構成のイメージから、がれきの山というテーマを生み出し、それらを木のようなイメージで構成しようと考えていることが分かります。この段階では、「おおむね満足できる」状況（B）と評価し、記録には残しませんでした。

スケッチから、木のような形を発想している。アイデアスケッチには、「ハリガネにプルタブをつける」「一面にプルタブ」とメモしている。

	4・5時の段階①	4・5時の段階②	4・5時の段階③
表現の様子			
見取り	大まかなイメージはもっていたが、完成形のイメージが明確ではなかった。豆電球、プルタブ、針金などの素材を箱の中に無造作に入れ、イメージを膨らませている。	プルタブがせり上がってくるようなイメージが生まれたようで、どうすれば高さを出しながら形づくれるかを模索している。	針金に通すことで高さを出そうと試みている。多素材に接着可能な接着剤を付けながら固定し、形をつくりだそうとしている。

	4・5時の段階④	4・5時の段階⑤	4・5時の段階⑥
表現の様子			
見取り	ある程度の高さを出したところで太さの調整を行った。イメージに近づけるためにプルタブの位置を微妙に変え、全体の形づくりを続けていく。	接着剤で固定しているが思うような安定感が出ないため、グルーガンを使用して根元から補強している。	形と太さに納得がいかず、高くせり上がった形にした。これを上部に持ち上げながらねじり、木の幹に見られるような力強さを無機質な素材で表した。

4・5時目は、生み出した主題を基に、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている姿を見取りました。生徒Mは、木のようなイメージで構成しようと考えていましたが、段階②の、せり上がってくるようなイメージへの変容、段階⑥にかけて、形と太さに納得がいかず、高くせり上がった形を2本に増やしたり、これを上部に持ち上げながらねじり、木の幹に見られるような力強さを表現しようとしていました。表現の中で主題の深まりが確認できたため、2・3時目に「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒Mについて、5時目に「十分満足できる」状況（A）の評価と判断し、授業中での評価を確定しました。

授業後

- ※授業中に評価を行った後に作品が変化する場合があるので、授業後に完成作品を再度確認します。

鑑

6時



本事例では、1時目にも鑑賞的な活動が位置付けられていますが、ねらいは、発想や構想に関する学習を深めることなので、6時目のみに評価場面を位置付けました。ねらいに即して評価の場面を計画しましょう。

評価規準：造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。

- 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えたりしながら見方や感じ方を広げているかどうかを、生徒のワークシートの記述内容や発言内容から見取ります。ワークシートの記述内容や発言内容等から、鑑賞が深まっていない視点等について学級全体に指導したり、個々の生徒の課題に対して個別の指導をしたりすることに重点を置きます。

→生徒自身の表現の活動における主題と表現の意図と工夫について振り返らせて、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方を広げられるようにします。

- 「十分満足できる」状況（A）に該当するような顕著な姿が見られる場合には、記録します。

授業後

- 授業後に、ワークシートの記述内容を基に評価をすることが基本になります。ワークシートの記述内容からの評価では「おおむね満足できる」状況（B）ですが、授業中の発言内容は「十分満足できる」状況（A）と判断される場合には、「十分満足できる」状況（A）と評価することも考えられます。

主体的に学習に取り組む態度 **態表**態度(表現) **態鑑**態度(鑑賞)

○指導に生かす評価の場面における留意点 ●記録に残す評価の場面における留意点(●※は補完)

→「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立ての例(赤字下線)

態表

評価規準：美術の創造活動の喜びを味わい、構成の美しさや表現したい思いを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。

1時

○1時目は、鑑賞する作品等に表現されている形や色彩などに興味や関心がもてず造形的な視点について理解しようとする意欲が見られない生徒を把握し、それらの生徒に対して、関心や意欲が高まるように個別の指導をすることに重点を置きます。

→形や色彩などが感情にもたらず効果をより実感的に理解できるよう、主題の内容から作品を再度見つけさせたり、身近な体験などと関連付けたりして考えさせます。

2・3時

○発想や構想に入った段階では、発想や構想への意欲や態度を高めることに重点を置きます。2時目は、題材に興味や関心がもてず、主題を生み出そうとしていない生徒を把握し、意欲が高まるように個別の指導をすることに重点を置きます。3時目は、生徒が造形的な視点を意識しながら生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとしている意欲や態度を高めることに重点を置きます。

→主題を確認させたり、生徒自身が表したいことを整理させたりして、主題について考えさせます。

→集めた素材と自己との関係を考えさせるなどします。

●2・3時目を通して、よりよい発想や構想を目指して改善を繰り返したり、継続して意欲的に取り組んだりする姿などを評価し記録します。

4・5時

○4時目は、制作への意欲がもてない生徒を把握し、楽しく意図に応じて創造的に表そうとする態度が高まるように個別の指導をすることに重点を置きます。5時目は、生徒が材料や用具の生かし方、つなげ方などを身に付け、意図に応じて楽しく工夫して表そうとする態度を高めることに重点を置きます。

→主題を確認させたり、生徒自身が表したいことを整理させたりして、再度主題について考えさせます。

→参考作品を見せ、自分の主題を考えさせることにつなげます。

●5時目は、生徒が楽しく制作に取り組み、造形的な視点を意識しながら技能を働かせて工夫して表そうとしている態度を見取ります。その際、よりよい表現を目指して試行錯誤する姿、知識や技能を身に付けようと継続的に意欲を発揮している姿などを見取ります。

態鑑

評価規準：美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6時

○●6時目は、生徒が他者の作品を鑑賞する様子を基に、鑑賞への関心や意欲等を把握することに重点を置き、記録をします。

→主題を考えさせたり、造形的な要素に着目させたりして、作者の心情について考えることができるようにします。

→自分の作品の意図と関連させ、他者の作品の特徴やイメージなどに気付かせるようにします。

7 観点別学習状況の評価の総括

④観点ごとの総括

- ・「題材の評価規準」に照らして、「A」、「B」、「C」の3段階で行った評価結果を基に、題材として観点ごとに「A」、「B」、「C」で評価の総括を行います。
- ・評価結果が「A、B」のように「A」の数と「B」の数が同数になることがあります。このような場合は、学習のねらいや時間数等に応じて、ある場面の評価に重み付けをすることや、「A」「B」が同数であれば「A」とするなど、あらかじめ総括する方法を決めておくことが大切です。



・本事例では、知識が身に付いていれば、そのことは発想や構想したことを基に技能を働かせて表された作品に表れてくると考えられるので、知識と技能の結果を合わせて「知識・技能」の評価として一体的に総括することが考えられます。

・本事例では、発想や構想に関連する活動と、鑑賞に関連する活動の時間数に差があるので、発想や構想に重み付けをして総括することが考えられます。

・2・3時目及び4・5時目の発想や構想の評価と、6時目の鑑賞の評価を合わせて総括しました。

・本事例における「主体的に学習に取り組む態度」は、表現や鑑賞の活動を通してある程度継続的に実現していることが大切です。したがって、「表現」と「鑑賞」の結果を同等に扱い、多い記号を基に総括することが考えられます。

観点	「知識・技能」		「思考・判断・表現」			「主体的に学習に取り組む態度」			氏名	評価
	評価規準		評価規準		評価規準					
	知	技	発	鑑	態表 (2・3時)	態表 (4・5時)	態鑑 (6時)			
あ	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B
い	A	A	A	B	A	A	A	B	A	A
う	B	B	B	B	B	B	A	A	A	A
え	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B

観点別学習状況の評価の総括の例

事例2 キーワード …… 指導と評価の計画

思考・判断・表現（鑑賞）の評価 主体的に学習に取り組む態度の評価

1 題材名 「やさしさをかたちに ～ユニバーサルデザインを生みだそう～」(第2学年)

2 題材の概要

- ・ユニバーサルデザインの基本的なコンセプトは、「できるだけ多くの人利用可能であるデザインにすること」です。
- ・本題材では、ユニバーサルデザインの7原則を導入で生徒に示し、使用する者の気持ちを強く意識しながら表現を行うことができるようにしました。まとめでは、平面上で作成した資料(生徒の表現例)を基に、班ごとに個人のプレゼンテーションを行いました。



生徒の表現例

3 題材の目標



①題材の目標の設定

- ・学習指導要領の目標や内容を踏まえて設定しましょう。
- ・それぞれの学校の生徒の実態、これまでの学習状況等を考慮して設定しましょう。

(1) 「知識及び技能」に関する目標

- ・形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果、ユニバーサルデザインの造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。 ([共通事項])
- ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。 (「A表現」(2))

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わりなどから主題を生み出し、ユニバーサルデザインとしての使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。 (「A表現」(1))
- ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (「B鑑賞」(1))

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的にユニバーサルデザインの目的や機能などを考えた表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

4 題材の評価規準

②題材の評価規準の設定

「参考資料」 巻末資料参照



「参考資料」に示されている「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化したたり省略したりして、設定することが考えられます(下表波線部=具体化したたり省略したりした部分)。

知識	技能	発想や構想	鑑賞	態度(表現)	態度(鑑賞)
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
<p>知 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果、<u>ユニバーサルデザインの造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</u></p> <p>技 意図に応じて表現方法を<u>創意工夫し</u>、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。</p>	<p>発 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わりなどから主題を生み出し、<u>ユニバーサルデザインとしての使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</u></p> <p>鑑 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>		<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す</u>表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>ユニバーサルデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める</u>鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>		

5 題材の指導と評価の計画（6時間）



③「指導と評価の計画」の作成

題材全体の指導と評価の計画を考えます。p.4の留意点を再度確認しましょう。

p.4 参照

○指導に生かす評価の場面 ●記録に残す評価の場面 ●※記録に残す評価の場面（補完）

知知識 技技能 発発想や構想 鑑鑑賞 態態度(表現) 態態度(鑑賞)

時	学習活動	知		思		態		評価の場面における留意点	【 】評価方法
		知	技	発	鑑	態表	態鑑		
1	・ユニバーサルデザインを鑑賞する。 〔p.18 参照〕 ユニバーサルデザインに関する各種サイトのコンテンツや、県内の中高生が出品したコンクールの受賞作品などを鑑賞し、ユニバーサルデザインの意義について、理解を深めます。	○						知 造形的な視点に着目して、ユニバーサルデザインの統一感について理解しているかどうかを見取る。 【発言内容、ワークシート】	
					○			鑑 ユニバーサルデザインの表現の意図と創造的な工夫などについて考えているかを見取る。 【発言内容、ワークシート】	
						○		態鑑 ユニバーサルデザインに興味や関心をもち、形や色彩、材料などの性質を理解しようとしたり、調和のとれた洗練された美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図や創造的な工夫などについて考えようとしているかを見取る。 【ワークシート、活動の様子】	
							●	鑑 ユニバーサルデザインに対する見方や感じ方を深められたかどうかを評価する。 【ワークシート】	
2	・主題を生み出す。 ・主題を基に構想を練る。 〔p.19・20 参照〕 「使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わりなどから」という部分を指導の中で強調しながら、主題を生み出し、発想や構想を練ることができるようにします。			○				発 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場に立つて主題を生み出せているかどうかを見取る。 【ワークシート】 主題を基に表現の構想を練っているかを見取る。 【アイデアスケッチ、ワークシート】	
						○		態表 主題を生み出そうとする態度を見取る。また、生み出した主題を基に主体的に構想を練ろうとしているかを見取る。 【ワークシート、活動の様子】	
							●	発 主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかどうかを見取る。 【ワークシート、アイデアスケッチ】	
3								態表 知識を活用しながら、主題を生み出し、生み出した主題を基に主体的に構想を練ろうとしているかを見取る。 【アイデアスケッチ、活動の様子】	
4	・発想や構想を基に、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通し	○						技 意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序を総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表しているかを見取る。 【制作途中の作品】	
5							○	態表 主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり、見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取る。 【活動の様子】	

4・5時

●作品から、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序を総合的に考えながら、見通しをもって表しているかを評価する際に、色や形などが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解していることを併せて見取り、知識及び技能を一体的に評価します。

授業後

●※発想や構想の学習で制作したスケッチや、鑑賞活動でのワークシートを再確認します。ペーパーテストで知識の概念的な理解を問う問題を設定することも考えられます。

技

評価規準：意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。

4・5時

○4時目は、意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表すことができるように指導することに重点を置きます。

→他の生徒の作品を紹介するなどして表現の表し方の工夫について考えさせたりするような指導を行います。

→形や色彩などの効果を再度確認できるようにし、主題を確認させながら生徒自身の表したいことを整理させるなど制作の手順を繰り返し確認させ、見通しがもてるようにします。

●技能の高まりは、制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れます。そのため制作途中の作品を中心に評価します。4時目には、制作が進まない生徒の指導を中心に行います。5時目にかけて制作が進むにつれ、表現方法の創意工夫や用具の生かし方の側面から技能を見取り、「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒も見取れるようになるので、授業中での評価を確定します。

授業後

●※授業中に評価を行った後に作品が変化する場合もあるので、授業後に完成作品をワークシート等の記述内容と見比べながら再度確認します。

思考・判断・表現

発発想や構想

鑑鑑賞

○指導に生かす評価の場面における留意点 ●記録に残す評価の場面における留意点(●※は補完)

→「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立ての例(赤字下線)

発

評価規準：使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わりなどから主題を生み出し、ユニバーサルデザインとしての使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。

2・3時

○2時目は、生徒が主題を生み出すことが重要なので、主題が生み出せていない生徒を把握することに重点を置き、一人一人の生徒が主題を生み出せるように丁寧に見取り指導をします。3時目に、主題を基に構想を練る際にも、構想を練り始めた段階では評価の記録を取らず、学級全体に指導したり、個々の生徒の課題に対して個別の指導をしたりすることに重点を置きます。

→生徒の主題と、色や形などが感情にもたらす効果などの関係を確認させて、再度主題について考えさせたり、作品を例示したりして、構想について考えることができるようにします。

→感じ取ったことや考えたことなどを振り返らせます。

4・5時

●4・5時目は、制作の中で主題を基にした構成の工夫も見取れるようになります。作品の完成が近づいてくる段階では、「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒も見取りながら、授業中での評価を確定します。

○6時目は、生徒が互いの作品の主題と表現の関係や、意図と創意工夫などについて考え、美意識を高め、見方や感じ方を深められるようにすることに重点を置きます。「十分満足できる」状況(A)に該当するものがある場合は、記録しておきます。

→表現の活動における表現の意図と工夫や主題について振り返らせ、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方を深められるようにします。

→〔共通事項〕の視点をもたせ、主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりします。

授業後

●授業後に、ワークシートの記述内容を基に評価をすることが基本になります。ワークシートの記述内容は「おおむね満足できる」状況(B)ですが、授業中の発言内容は「十分満足できる」状況(A)と判断される場合には、「十分満足できる」状況(A)と評価することなどが考えられます。

主体的に学習に取り組む態度

態表態度(表現) 態鑑態度(鑑賞)

○指導に生かす評価の場面における留意点 ●記録に残す評価の場面における留意点(●※は補完)

→「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立ての例(赤字下線)

態表

評価規準：美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。

2～5時

○2時目は、題材に興味や関心がもてず、主題を生み出そうとしていない生徒の把握に重点を置きます。3時目は、生徒が造形的な視点を意識しながら生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとしている意欲や態度を見取ります。

→身近な生活の中で使われているユニバーサルデザインを用いて、色や形などが感情にもたらす効果などについて考えさせたり、鑑賞の活動の振り返りをさせたりします。

→新たなユニバーサルデザインの例を提示するなどして、表現の工夫などについての意欲を高められるようにします。

○4・5時目は、制作への意欲がもてない生徒を把握し、主体的に造形的な視点を意識しながら制作の順序を総合的に考え、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しをもって表そうとする態度が高まるようにします。

→構成や描き方による違いなどを例示し、表現の工夫についての意欲を高められるようにします。

●2～5時目を通して、よりよい表現を目指して試行錯誤する姿や、知識や技能を身に付けようと継続的に意欲を発揮している姿などを評価します。

態表の2～5時 ●記録に残す評価の場面

「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒Qの見取りの具体

「修正が必要な点」（赤枠内）「機能はそのままに」（青枠内）などの修正の視点を自ら起こしている。それらの視点に基づき、アイデアをブラッシュアップし、自分の目指す表現に近付けようとしている。

よりよい発想や構想を目指して改善を繰り返したり、継続して意欲的に取り組んだりする姿を評価し、記録に残します。生徒Qは、生み出した主題をよりよく表現しようと、粘り強く取り組んだり、自己調整を図ったりしていることが分かります。このように、表現における修正や改善の過程を生徒のワークシートの表現、記述内容などから見取り、主題や表現意図などを基に丁寧に読み取ることが大切です。

生徒Qのワークシート

態鑑

1時

評価規準：美術の創造活動の喜びを味わい主体的にユニバーサルデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

○鑑賞の作品に表現されている形などに興味や関心がもてず、見方や感じ方を深めようとしない生徒や、造形的な視点について理解しようとする意欲が見られない生徒の把握に重点を置きます。

→提示資料について確認したり、身の回りのものとの関連から考えさせたりします。

→見る人の視点に立たせるなどの指導を行います。

6時

●6時目は、生徒が他者の作品を鑑賞する様子を基に、鑑賞への関心や意欲等を把握することに重点を置き、記録をします。

→自他の作品の意図や創造的な工夫などから、伝達のデザインの効果と造形的な特徴との関係性などを多様な視点で考えさせるようにします。

→主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行います。

Q 1 作品からの評価は、重視しない方がよいのでしょうか。



A 作品からの評価を重視しないというよりも、表現の過程（プロセス）を重視すべきという考え方が大切です。美術教育では、指導者が作品の出来栄えにとらわれて評価する例について、作品至上主義という批判がありました。しかし、作品は生徒自身の気持ちが表れているとても大切な表現の形であり、作品を通しての評価も、もちろん行います。ただ、生徒が主題をどのように生み出したのか、発想や構想をどのように展開したのか、生徒がどのような思いで表現したのかなどについては、作品のみから見取り評価することが困難な場合が多く、学習指導要領に示されている資質・能力が身に付いたかどうかを判断するのは難しいと言えるでしょう。

Q 2 C評価はつけない方がよいのでしょうか。



A できる限りC評価にならないようにするのが教師の大きな役割です。ただし、観点別学習状況の評価が、「努力を要する」状況（C）になることはあり得ます。重要なことは、C評価と判断される場合に、生徒の学習改善や教師の指導改善をどのように捉え、どのように必要な支援を行うかです。例えば、豊かな発想を基に主題を生み出している生徒が、それを表現するための技能を身に付けていなければ、必要な技能を身に付けられるように適切な支援を行います。このように、全ての生徒が学習評価の三観点において「おおむね満足できる」状況（B）以上になるための具体的な手立てを考え、支援することが大切です。

Q 3 評価方法には、どのようなものがありますか。



A 評価方法には、様々なものがあります。多角的に行うための評価方法の例を挙げます。

- ①観察……座席表・フィールドマップなどの活用
- ②対話……デジタルカメラ・タブレット端末などの活用（観察・生徒による撮影）
教師と生徒の対話、生徒同士の対話、作品や素材などの対象との対話（表現）
- ③カード…ノート・ワークシートなどの活用（記述分析）
- ④作品……作品・ポートフォリオなど

参考資料

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 美術編』 平成 30 年 日本文教出版
- ・国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 美術】』 令和 2 年 東洋館出版社
- ・福本 謹一・村上 尚徳 『中学校新学習指導要領の展開 美術編』 平成 30 年 明治図書
- ・阿部 宏行 『図工を通して 子どもがもっと好きになる 評価のABC』 令和 2 年 日本文教出版